

目次

第1講	論説・評論の読解(1)	指示語・接続語	2
第2講	論説・評論の読解(2)	表現上の工夫	8
第3講	論説・評論の読解(3)	段落相互の関係	14
第4講	論説・評論の読解(4)	要旨	20
第5講	論説・評論の読解(5)	主題	26
第6講	随想・随筆の読解(1)	事実と感想	32
第7講	随想・随筆の読解(2)	主張	38
第8講	小説の読解(1)	心情	44
第9講	小説の読解(2)	主題	50
第10講	詩・短歌・俳句の読解		56
第11講	演習編 論説・評論(1)		62
第12講	演習編 論説・評論(2)		68
第13講	演習編 随想・随筆		74
第14講	演習編 小説		80
第15講	演習編 韻文を含む文章		86
入試問題演習			92

第1講 論説・評論の読解(1) — 指示語・接続語

基礎学習

1 論説・評論の読み方

論説・評論とは、筆者自身の考えを他者(読み手)に対して明確に主張し、相手(読み手)を十分納得させることを目的とした文章である。「相手(読み手)を納得させる」ことを目的とした文章であることから、その構成は論理的で筋道だっている。つまり、筆者の論理構成(文章の組み立て)を読み取れば、筆者の主張とその意図がよくわかるように書かれている。つまり、筆者の論理構成(文章の組み立て)を読み取り、「何について」「どのように」言っているか、「なぜ」そう言っているのかを読み取ることが重要である。

2 指示語の活用

指示語は、前(まれに後)に述べられた内容を受け、後ろへ発展させていく言葉である。文脈上の論理的つながりをつかむうえで、その内容をしっかりと把握することは必要不可欠である。

指示内容は、一般に同一段落中の指示語より前の部分に含まれており、指示語以降の内容をヒントに読み取る。読み取った内容は、指示語にあてはめて意味が通じるかどうか確認しておこう。

また、指示語が名詞(「これ」「それ」など)、連体詞(「この」「その」など)、副詞(「こう」「そう」など)により、「～こと(もの)」「～の」「～のように」といった末尾の工夫をして答える必要がある。

3 接続語の活用

接続語は文と文、部分と部分、段落と段落をつなぎ、文章を組み立てていくはたらきをもつ言葉である。論理的文章の読解とは、その文章の論理の筋道を追うことであるから、そのうえで文章の論理構成を示す接続語のはたらきを理解することは重要である。接続語のはたらきはおおよそ次のように分類できる。

- ① 順接 …前に原因、後に当然の結果が続く関係。《だから・したがって・それゆえ など》
- ② 逆接 …前後がなんらかの点で対立する関係。《しかし・けれども・だが・とはいえ など》
- ③ 転換 …前後で話題が換えられている関係。《ところで・さて・では など》
- ④ 並列・選択 …同格のものとして(並列)、あるいはどちらかを選ぶという形で(選択)並べられる関係。《また(並列)、あるいは(選択) など》
- ⑤ 添加 …因果の意識なく、付け加えられる関係。《さらに・そのうえ・しかも など》
- ⑥ 説明 …前のことからの要約、言い換え、根拠、例示などを後で述べる関係。《つまり・すなわち(要約・換言)、なぜなら・というのは(根拠)、たとえば(例示) など》

POINT

文章の内容も実に多様で、政治・経済・社会・芸術・文化・哲学・心理学・自然・科学など、さまざまな分野にかかわる内容が扱われる。

心情を軸に構成された随筆や物語的構成をもった小説とはその組み立ては全く異なるものと言つてよい。

指示語が指す内容(指示内容)は、原則として指示語の前にあり、同一段落中の後ろの内容はヒントになる。

接続語は前後のつながり、文章の構造を示す。接続語に注目し精読することで、文章の主張に迫ることができる。

例題

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(森本哲郎「続生き方の研究」による)

問一 □ A～Cに入る最も適当な接続詞を、次のア～カからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- ア けれど イ または ウ しかも
- エ では オ それに カ したがって

問二 — 線①「それ」が指しているものは何か。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア イソップの寓話 イ 普遍的な知恵 ウ 多くの教訓 エ 貴重な経験

問三 — 線(A)「『イソップ物語』を……愛読されつづけてきた」とあるが、その理由を述べたものとして最も適当なものを、次のア～ウから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 経験による学習は無意識なもので、人はことさらその意味を問わないが、イソップがそれを意識化したから。
- イ イソップが残した教訓は、経験に学べという人間に共通する普遍的な知恵であったから。
- ウ イソップが授けてくれた教訓が、二千数百年の間、洋の東西を問わず、少しも人気を失っていないから。

重要語句

- ◇ 寓話＝擬人化した動物などを登場させ、人生の教訓や風刺を述べる話。「イソップ物語」など。
- ◇ 普遍＝すべてにあてはまること。すべてに共通なこと。
- ◇ 不易＝変わらないこと。不変。

ポイント

- △前後の関係に注意し、文脈がつながるように接続詞を入れる。
- △直前の内容から、最も意味が通じるものをあてはめる。
- △間接的な因果関係や、単なる事実を述べているものでは理由にならない。

基本問題

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

Sample

25

20

15

10

5

重要語句

◇風土⇨住民の慣習や文化に影響を与える、その土地の気候や地形や地質など。

◇人為⇨人間のしわざ。特に、自然に対して人間が手を加えること。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

55 50 45 40 35 30

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(村上陽一郎「情報と科学・技術」による)

問一 線(a)～(c)に該当する漢字と同じ漢字を含むものを、次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- (a) ア ケン示欲 イ 首都ケン ウ 経ケン エ 派ケン
(b) ア 出チヨウ イ チヨウ簿 ウ チヨウ越 エ 象チヨウ
(c) ア 技シ イ シ柱 ウ シ格 エ シ設

問二 線①と最も近い意味の語を、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 事例 イ 凡例^{はんれい} ウ 慣例 エ 症例

問三 Xに入る最も適当な語を、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 現実 イ 抽象 ウ 感覚 エ 理想

問四 線②「状況」となった理由として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 公教育の崩壊にともなう教育制度への不信感が高まったため。
イ さまざまなごみの増加により環境破壊が深刻化したため。
ウ 自治体などの税収減によって財政状態が逼迫^{ひっぴく}したため。
エ 条例等によって個人生活に対する規制が強化されたため。

問五 線③「こうした方向」の示している内容として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 個人個人が発信する情報を、政府が判断・行動の指針とする方向。
イ 個人個人が情報収集し、自分自身による判断・行動を起こす方向。
ウ 政府が個人に向けて情報を提供し、判断・行動の規準を示す方向。

エ 政府が収集した情報を、個人の要求に従いすべて開示していく方向。

問六 A～Cに入る最も適当な語を、次のア～カからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。ただし、同じことばを二度以上用いてはならない。

- ア しかし イ やはり ウ だから エ あるいは
オ 例えば カ もし

A 「 」 B 「 」 C 「 」

問七 本文には、次の段落が抜けている。どの段落の前に入れるのが適切か。各段落のはじめに示されている段落番号①～⑦から、最も適当な場所を一つ選び、番号で答えよ。

もちろん、社会的エージェントとしての個人の判断と行動だけで、
まこと全うされないような国家的行動は確かにある。例えば防衛であり、
あるいは外交である。例えば、国家間の外交では、個人同士の関係
であれば許される判断や行動が、不可能であるような場合を想定す
ることができ。防衛でも事情は同じである。 「 」

問八 本文の論旨に合致しないものを、次のア～カから二つ選び、記号で答えよ。

- ア 高度な民主主義社会実現のために、情報技術の発展は無意味ではない。
イ 近代社会では、個人の機能は狭められて、外部への委託が進んできた。
ウ 情報化社会は、民主主義社会であり、すべての情報が開示されるべきだ。
エ 情報技術を使って「公論」を求める考え方は、形式的なものばかりだ。

オ 行政が行う国民からの意見収集は、国民への還元を前提とすべきだ。

カ 情報技術に支えられた高度な民主主義社会では、個人の責任も増す。 「 」 「 」